

小野をの〔岩屋いはやの北二十町余にあり、小野をのは庄号にして内に数村あり、東河内、西河内、上村、中村、下村、真弓まゆみ、細河ほそがわ、杉坂等なり〕

小野をの篁社たかむらの〔鷹ヶ峰たかみねの西北長坂ながさかを経て、東河内民居かうちみんきよの坤二町ばかりにあり。祭神小野たかむらの靈なり、生土神うぶすなじんとなす。

例祭九月十六日、神輿一基〕

篁伝たかむらでん参議岑守さんぎみねもりの男にして左大辨さだ從二位じゆになり、承和三年二月に配流せられて隱岐国おきのくにに遷る、同七年四月勅許を蒙りて帰洛す、同八年閏四月本位に任ず、仁寿二年十二月廿二日薨なげず〔五十歳〕

落葉宮おちばのみや〔下村民居みんきようしとら良一町ばかりにあり。祭神柏木衛門かしはぎゑもんが心をかけし女三宮にむすみの靈といふ、生土神うぶすなじんとす。例祭九月十五日、神輿一基あり〕

御栗栖野みくるすの〔西加茂大門村かもの西の野をいふ。此所いにしへ大内裏の時寮の御馬の秣を生す所なり、故に御の字を冠らしむ。又此名花山の南にもあり〕

源氏物語曰　くるす野のさう近からん御馬草なんととくかはせと云々。

氷室社ひむろ

〔紫竹村しちくの北三十町余氷室村ひむろにあり、祭神未考。此所にいたる南に氷室坂ひむろざかあり、四面みな山にして境方嶮岨ひむろざかなり、いにしへ此ところに氷室あり〕

をのゝひむろのかたに残りの花尋ねける

千載 下さゆる氷室ひむろの山のおそ桜消残りける雪かとぞ見る

源 仲 正

同 あたりさへ涼しかりけり氷室山まかせし水の凍るのみかは

大炊御門右大臣

新統古 眼あればふじのみ雪の消る日もさゆる氷室ひむろの山の下柴

順 徳 院

〔延喜式に見えたる氷室、山城及び諸国共に五百九十六所なり、当国氷室ひむろの地多くは廃して今纔遺れり〕